風間市長の 風のささやき

「人間力」

震災とはいえ、この春から新たな生活が始まった人たちが大勢いました。特に進学により新天地で生活を送る学生さんたちが一例だと思います。例年ですと、夢や希望を胸にさまざまな生活準備を家族とともに余裕をもって行っているはずでしたが、この震災で予定が大いに狂ったことでしょう。

その境遇の中に知り合いのご家族がおりました。その息子さんも、この春から関東の大学に入学が決まり、新天地での生活準備のため、3月末までに居住地に何度か足を運び、生活用品をそろえながら入学式を迎える予定でいたそうです。

しかしそれが一変。あの地震で自宅の被災とともに、上京するための足や準備した荷物を送る手段が一瞬にしてストップしてしまいました。震災時、その息子さんは自宅で一人だったのですが、火の元のチェックに始まり、なべに水のくみ置き、散乱した家の片付けなど、母親が帰って来るまで行っていたそうです。

その後、電気が復旧しテレビやインターネットの情報を得ながら、月末までに上京する手だてを自分で予約し確保したそうです。その方法で上京したものの、アパートに生活用品はゼロ。当時は宅配も不通、準備していた物はまだ白石の自宅にあり、電化製品なし寝具なしの「ない尽くし」の中で生活していたとのことです。

そのお父さんの一言。「今まで何もできないと思っていた息子が、この震災によりたくましく思えた」そうです。同じ親としてなんだか分かる気がします。人間が持つ生きるための力は、普段の生活からは感じられませんが、いざという時に発揮されるもので、人が持つ潜在能力は侮れないということでしょう。

その能力を子どもが持っているということを、親が信じられるかどうかなのでしょう。「子どもの力を信じること。それが子離れなのかな?」と、そのご家族の話を聞いて思いました。私も息子たちが持っているだろう能力を信じなければならないとつくづく感じました。

人は、「やらなければならない!」と覚悟した時、「依存本能」から「自力本能」というのでしょうか、何事もかなえる力を発揮することができるのです。みんなで力を合わせて頑張りましょう! 未来の白石のために!

震災直後から個人・団体・企業などさまざまな方々からご支援・応援をいただいておりますこと、紙面をもって厚く御礼を申し上げます。その声援に必ず応えるためにも、一日も早く復興させることをお約束します!

本当にありがとうございました。感謝いたします。

▲災害復興祈願「白石市こけしと地場産品市」で復興を誓いました（5月3日、いきいきプラザ）

まちの話題 ～あの日、あの時～ Diary

試合ができる喜びをグラウンドで目いっぱい表現
第11回佐藤浩杯中学生サッカー交流大会

4月30日・5月1日・3日の3日間、「第11回佐藤浩杯中学生サッカー交流大会」が白石川緑地公園で開催されました。今年の大会には白石・福岡・東中学校のほか、津波の被害が大きい亘理町の亘理中学校など仙南の12中学校が参加し熱戦を繰り広げました。

子どもたちにとっては震災後初めての対外試合。最初は動きも固くミスが目立ちましたが、次第に勘を取り戻し随所に好プレーを見せてくれました。

熱戦の末、決勝にこまを進めた東中学校は惜しくも決勝で敗れ準優勝。川崎中学校が優勝を飾りました。

白石サッカー協会の大宮信明会長は、「こんな時だからこそ、サッカーを通じて子どもたちのためにできる限りのことをしたい」と話してくれました。

1_激しくボールを競り合う東中学校（右）と角田中学校の選手　2_ゴール前で必死に守る白石中学校の選手　3_コーナーキックからチャンスを作る福岡中学校

応募方法　1人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292　白石市大手町1-1白石市総務課へ。はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。（koho@city.shiroishi.miyagi.jp）

市民文芸

歌壇

岩崎聰之介　選

停電の夜の余震のつづくなか土鍋のめしがころ和ます　鈴木久美子

亡き母が作りてくれし半纏は地震つづく日日吾が身を温む　石田みどり

火も入れぬこたつに声なくみなで居ればろうそくの火余震に揺るる　阿部みさ子

笑顔にはしばらくは戻るまいこの先もまだまだ続く余震におののく　遠藤　舞

一瞬に人生変えたる大津波被災者十二名わが家に集う　阿部はぎの

大地揺れ自然の脅威に畏怖するも陽はまた昇り桜を愛でる　村上　英俊

悲しみを耐ふる人らの背を押して春の朝日が眩しく昇る　鈴木　茂子

雪かむる土にうづみたる大根はかじると甘し果物のごとし　川村　静恵

あからひく幼の寝顔見つむれば余震の夜も心和みぬ　寺崎　悦子

残されて生きねばならぬ天命と歯をくいしばる老母やかなし　斎藤　典子

評　一首目、火加減をみながら炊きあがったご飯だ。久しぶりにお焦の匂いがしたのかもしれない。

二首目、結句の「温む」は、古語で温ませるという意味。一層忘れがたい半纏となった。

三首目、大地震後の不安な夜を詠う。二句目がいい。

俳壇

遠藤秋尾　選

地震つづく祈りの日々や初音聴く　石田みどり

地の神よ鎮もり給へ春日照る　岩澤　伍峯

つくしつみ素手は童となりにけり　服部　忠孝

春眠を誘ふ時計の刻む音　岩松　隆志

啓蟄やいのちあるもの皆うごく　高子たちばな

窓閉めて花粉締出す春かなし　福原　峯子

梅一樹ひそけく咲いて実朝忌　斎藤　典子

糸桜活けて来し日の大地震　大庭美智子

中継のアンテナ高く山笑ふ　制野　リエ

倒壊の墓にも清し初音かな　寺崎　悦子

評　一句目、未曾有の大地震、大津波、まだ続く余震に心暗い日々に聴くウグイスの声に、何か心温まる作者である。平穏な日の早からんことを祈る。

二句目も震災の鎮まりを願う句である。「春日照る」の下五が神々に通じたようだ。

三句目、つくし摘む幼いころを思い出しつつ、素手は少年の手に戻った感じ。過去を振り返っても何も生まれない。皆さんで復興に向かって頑張りましょう。

柳壇

四竈英夫　選

ひび割れた柱にすがりつく余震　大庭　良子

少子化の横に座っている長寿　草野　清

空気まで売っていそうな量販店　佐藤　啓子

忘れてた水と電気のありがたさ　斎藤　典子

文明の進む恐さに身震いし　阿部みさ子

震災を知るか知らずか梅が咲く　木村　貞雄

ここだけと言った言葉は風に乗る　遠藤　行夫

欲望を少し減らして恙なく　阿部はぎの

喜寿の身にあと三十年も歌えよと　大庭美智子

夕食に孫の笑顔でおかず増え　遠藤　松雄

評　一句目、あまりにも大き過ぎた震災。ひび割れた柱が物語る。そして、なお消えぬ余震の恐怖。「風評で終ってほしい余震説」

二句目、少子高齢化は熟語となってしまった。長寿王国は、喜ばしい限りであるが、それを支える子がいない。子どもは国の宝なり。

三句目、量販店の品揃えは驚くばかり。欲しい物はいつでも手に入る。それだけに震災時の物不足は深刻だった。「治にいて乱を忘れず」か。

—思いやりのある良質で信頼される医療を目指して—

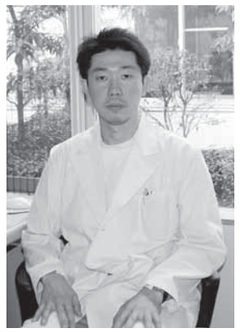
公立刈田綜合病院紹介

新任医師紹介
整形外科医師　森　優

4月1日付けで公立刈田綜合病院整形外科に赴任した森優です。

整形外科の中でもいろいろと分野が分かれており、私の専門は関節外科と関節リウマチです。

私は、地域の病院の整形外科医の仕事で最も重要な部分は、ご高齢の患者さまの大腿骨頸部骨折などに代表される、整形外科的外傷の治療と考えております。こちらの医療圏の諸先生方と広く連携して、骨折など外傷の手術を速やかに行っていけるように努力したいと考えております。



膝関節などの慢性的な関節の疼痛、手足の腫脹、変形などに関してもご相談ください。

4月1日「回復期リハビリテーション病棟」開設

「回復期リハビリテーション病棟」は、脳血管疾患・下肢の骨折などの方々を対象として集中的にリハビリテーションを行い、自宅退院に向けて準備する専門病棟です。

専門病棟の開設により、日常生活能力の向上を目指し、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカーなど他職種のスタッフが共同で、患者さまがより充実した生活を送れるよう支援します。

入院の申し込み方法などの詳細は、地域医療連携室にお問い合わせいただくか、ホームページ「地域医療連携」の「回復期リハビリテーションのご案内」をご覧ください。

●問い合わせ先
地域医療連携室　☎25-2145（内線2600）
ホームページURL　http://www.katta-hosp.shiroishi.miyagi.jp